

今月の写真:「南郷トマトもだっくうツアー」

昨年、南郷トマトのハウス片づけ作業を旅行の商品の目玉としたツアーが実施されました(南会津のうりんニュース第91号に記載)。

作業後、ツアーの参加者(主に都会の方々)に感想を聞いてみると口々に「楽しかった!!」の声が!!

皆さんの身近にもツアーの目玉になる「宝」ありませんか?

今月の内容:

- 今月のトピックス
 - ・ 田んぼの学校「稲刈り」を行いました!!
 - ・ 南会津直売加工ネットワークが設立しました!!
 - ・ 南会津地方遊休農地活用推進会議・幹事会による現地調査が実施される!
- 集落営農情報
 - いよいよ実践! 芦ノ原集落の集落営農活動状況
- 農林事務所からお知らせ
 - 南会津地方遊休農地活用推進大会のお知らせ
- 今月のコラム
 - 南会津の自然

平成18年10月16日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

田んぼの学校
「稲刈り」を行いました!!



去る9月21日南会津町立田島第二小学校(旧田島町)で行っている『田んぼの学校』において、澄み切った青空の下、この春植えたコガネモチの稲刈りが行われました。



全校生徒で稲刈りしました

稲刈りは、地元長野地区、田部原地区の方たちが先生となって行い、この日ばかりは、小学校の先生方も生徒になって、地元の方たちから稲

を刈るときの稲の持ち方から結び方まで教わっていました。

刈った稲は、地元の方たち(主にお祖父さん方)が組んだ稲架いねかに児童が掛けていきました。

今回刈った稲は、10月16日に地元の方々の協力を得て5年生が脱穀だつこく、籾摺もみすりを行い、10月29日に行われる収穫祭では、その米を使って餅つきが行われることになっています。

(農業普及部、農村整備部)

南会津直売加工ネットワークが
設立しました!!

去る8月29日会津田島ふれあいステーションプラザにおいて南会津直売加工ネットワークの設立総会が開かれました。



南会津には農家の立ち上げた農産物の直売所や加工所が多くあります。その多くは小規模であるため、直売所は品揃え、加工所は販売先の確保が課題となっておりました。そのため、南会津地方の各直売・加工組織が連携をとることによる経営安定を目的として結成されました。

現在、加入している組織は14組織で直売所9組織、

(2ページに続く)

(1ページから続く)

加工所3組織、直売加工組織2組織となっています。

本年の活動は食品表示の研修会、直売加工所マップの作成、その他イベントを計画しています。

(農業普及部)

南会津地方遊休農地活用推進会議・ 幹事会による現地調査が実施される！

去る9月13日、南会津地方遊休農地活用推進会議・幹事会による遊休農地の現地調査が行われ19名が参加しました。

南会津水無・中荒井地区における水無そば組合・FKファーム・南会津アグリサービスによる遊休農地の活用事例(そば・アスパラ)及び、下郷町落合地区における



水無地区のアスパラガス栽培

砂利採取による遊休農地復旧後の活用事例(そば)を視察すると共に意見交換を行いました。

今回の視察先は、国営(南会東部開拓パイロット事業)

及び県営(水無川開拓パイロット事業・中荒井農林地一体開拓パイロット事業)による農地開発事業で造成された土地が遊休地化した地区でしたが、参加者からは現地がそばを中心にして大規模に遊休農地の活用が進んでいることについて驚きの声と、2年後には国道289号甲子トンネルの開通となり交流人口増加も見込まれることから南会津郡内で栽培されているそば(380ha)の産地化・ブランド化について研究推進すべきと意見等が出されました。

今後、遊休農地活用推進と共に、時代にあった新たな農業の確立が求められていると感じた現地視察でした。

(農業振興部)



意見交換

集落営農推進情報

いよいよ実践! 芦ノ原集落の集落営農活動状況

周囲を山々で囲まれた「下郷町芦ノ原集落」では、今秋から農作業受託組合による稲刈り作業が開始されました。集落の若いオペレーターが集落のためにコンバインに乗る姿に「集落に活気が戻ってきた」と熱い眼差しで見つめる70代の男性がそう語るように、いま集落営農で村が活気づいています。その活動の一部を紹介したいと思います。

下郷町芦ノ原集落(農家戸数47戸、水田面積12.3ha)では、昨年8月から始めた集落住民による話し合いを経て、今年2月に、農用地の利用調整・企画運営等を行う「芦ノ原農用地利用改善組合(参加戸数47戸)」と、稲作の主要農作業を担う「芦ノ原農作業受託組合(構成員16名)」が設立されました。全て兼業農家である同集落では「兼業農家でできる集落営農のしくみ」づくりを目標に、まずは秋作業である「稲刈り」からの受託事業を開始したところです。

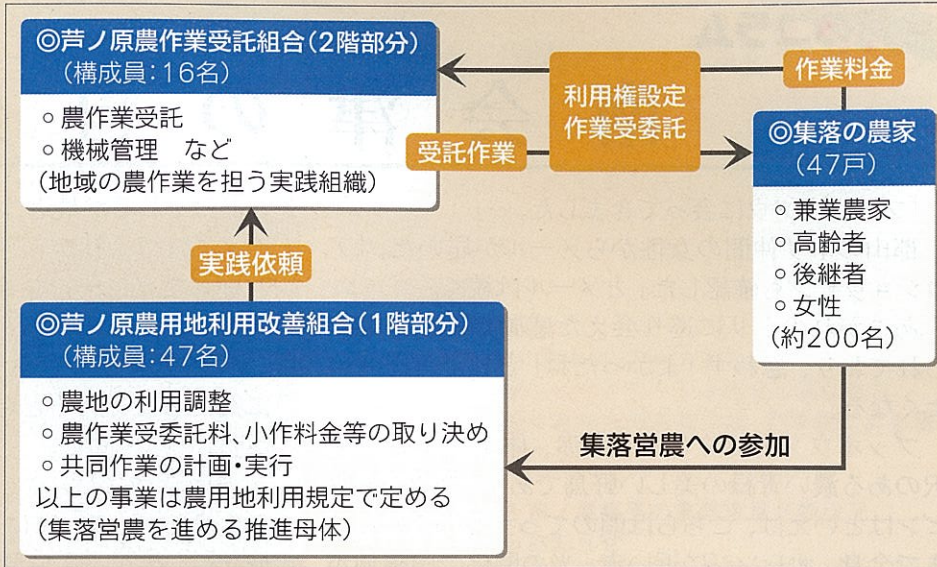
この芦ノ原の集落営農方式は、よく「2階建て方式」と呼ばれています。集落営農組織を2階建ての



家に見立てたもので、1階部分には地権者が参加する農用地利用改善団体、2階部分には実戦部隊となる農作業受託組織があり、住民の多くが様々な形で、そして自分の意志で集落営農に参加できる仕組みです。また、1階と2階を分離することによって、リーダーの役割分担が明確になり、負担の軽減になることもこの方式の良いところかもしれません。

芦ノ原集落では、1階部分にあたる農用地利用改

善団体で共同作業の計画・運営や農用地の利用調整などを行っています。特に農作業受託料、小作料の取り決めに重点を置き、受益者負担を少なくするために町公示額の8割を目指しているのが特徴です。こうした機能も改善団体ならではのメリットです。また、2階部分にあたる農作業受託組合については、作業計画に合わせて16名のオペレーターが協力し交代で作業を行っています。これに



芦ノ原集落の集落営農の仕組み(2階建て方式)



より計画的に会社を休むことができるようになり、勤めながらの農業への負担が軽くなったのも事実のようです。

現段階では集落水田の1/4の農作業がまとまったばかりです。まだまだ出来る農家は自己完結で行っています。しかしながら、高齢で近々出来なくなる農家が多いことも事実です。「集落の農地は集落で守る」ことを形にしたのが芦ノ原の集落営農です。現状維持の「守る」ではなく、新たな取り組みによる「守る」は、新たな農業の可能性を導き出すに違いありません。

(農業普及部)

農林事務所からお知らせ

南会津地方遊休農地活用推進大会のお知らせ

南会津地方において、遊休農地の活用に繋がった事例は「そば」や「アスパラガス」等の栽培がありますが、今回の大会では「そば」を中心に開催します。

遊休農地を活用しようと考えている「みなさん」、または遊休農地の対処に悩んでいる「みなさん」への参考となるような講演・意見交換会を開催します。

名称 南会津地方遊休農地活用推進大会
(悠久(ゆうきゅう)のそば産地を目指して)
日時 平成18年11月16日 10:00～
場所 南会津町「御蔵入の里 会津山村道場」

～主な内容～

- (1) 報告事項「南会津の農地の現況について」
- (2) 講演会
「全国の中山間地における遊休農地活用優良事例紹介」(予定)
- (3) 昼食「遊休農地再生による新そばの食事会」
※昼食代として一人300円
- (4) パネル紹介
「そば新品種研究・ワラビ等の山菜栽培などの研究課題・研究成果等の紹介」
- (5) そばによる健康増進講話
「不老長寿食から見たそばの効能」(予定)
- (6) 意見交換
「遊休農地を活用した日本一のそば産地を目指して」(予定)

※詳細及び参加申込みについては、お住まいの町村の農業委員会もしくは南会津農林事務所へお問い合わせ下さい。

南会津の自然

「ブッポウソウに会ってきました…」

郡山のトリ仲間の女性からメールが届いた。「アカショウビンも確認した」とメールは続く。

あこがれのトリに巡り会えた感動が脈々とつづられており、思わず「よかったね」と独り言を言いたくなる。

ブッポウソウはくちばしが赤、体全体が金属光沢のある濃い青緑の美しい野鳥である。アカショウビンはといえば、こちらは頭のとっぺんからしっぽまで全身、オレンジに近い赤。光の関係で雨覆羽が赤紫に見えるときもある。

一般に野生の動物は美しいもの、ハデなものほどその個体数は少ない。両種も例外ではなく、バードウォッチャーにとっては夢にまでみる。また、一度出会ったら舞い上がってしまうほどのトリである。

バードウォッチャーという輩は、行動派が多い。憧れのトリに会うためにはたとえ火の中、水の中、どこへでも出かける。くだんの女性もブッポウソウに会うため、長野県栄村まで行って来た。ただし、ツアー参加だという。



木から滑り降りたツキノワグマの爪痕(三岩岳登山道)

話はそれるが最近、バードウォッチャー人口が増え、旅行会社が「〇〇(トリの名前)にであう旅」と称したツアーを企画し、全国どこへでも手軽に出かけられるようになったらしい。裏磐梯の某ペンションは、宿泊した人達をアカショウビンのいる沢に案内してくれるというので関東圏から多くの客が訪れる、と聞く。

当南会津には、この「あこがれのトリ」が兩種とも生息している。特にアカショウビンは鳥影が濃い。檜枝岐、久川、木賊温泉、黒谷川…。大げさにいうならブナやカツラ・トチノキがある、ちょっとした清流が流れている沢ならどこでも出会える可能性がある。

先日、くだんの女性にその話をしたところ、わざわざツアーに参加して長野県まで出かけていった苦労はどうしてくれるの〜と力が抜けたようだった。

4月に赴任して半年が過ぎた。南会津の印象を改めて問われると、言い古されたきらいもあるが「自然が豊か」である。でも、わたしが感じている豊かさはハンパじゃない、「底なしに深みのある豊かさ」なのである。

オオムラサキ・イチモンジチョウと一緒に乱舞していたおびたしい数のテングチョウ、伊南川に架かる電線にのんびり止まっていたブッポウソウ、アパートで毎日のように聞いたアカショウビンのやわらかい声、田の畦に産み付けられたシュレーゲルアオガエルの卵塊、クマタカ・オオタカ・ハイタカなどの猛禽類、オサバグサ・シラネアオイ・クマガイソウ…、尾瀬・会津駒ヶ岳・三岩岳・田代山・浅草岳…。

南会津の山々はどこへ行っても、行くとたびに新しい感動を与えてくれる。

もう、ビールが旨くてうまくてー。単身赴任なんてなんのその、である。

(森林林業部長 熊谷建一)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。